

三鷹市立東台小学校 令和5年度【音楽科】授業改善推進プラン

|      | 前年度授業改善推進プランの検証   | 学習状況の現状と課題  | 指導方法の課題と授業改善策   |
|------|---|---|---|
| 第1学年 | <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○授業のルールや楽器の使い方の指導に注力してしまい、音楽の触れる時間が少なくなっている。</li> <li>○手遊び歌など、リズムに乗れず一緒に活動できない児童がいる。</li> <li>○児童の技術に偏りがあり、個別に指導することが十分にできていない。</li> </ul> <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ペアやグループでお互いの演奏を聴き合ったり、教え合ったりすることで、技能の定着を図る。</li> <li>○授業の流れを明確にし、活動量を増やしていく。</li> <li>○曲想を考えながら、メロディーのイメージを頭に浮かべながら歌唱できるように指導していく。</li> </ul>  | <p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○音名と鍵盤の位置を確認しながら、正しいリズムで鍵盤ハーモニカの基礎的な曲を演奏できている。</li> <li>○4拍子を感じながら、リズムの模倣をすることができている。</li> <li>○速度や拍子、リズム、強弱を感じ取りながら、音楽に合わせて身体を動かす活動ができている。</li> <li>○鍵盤ハーモニカの技能の習得に大きな差がある。</li> <li>○自分でリズムを作って表現することが苦手な児童が多い。</li> </ul>   | <p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○若手意識の高い児童に個別の指導をすることができていない。</li> <li>○音楽づくりの活動が不十分であった。</li> <li>○音楽から感じ取ったことを、音楽の要素と関連付けて捉えることができていない。</li> </ul> <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童同士が学び合う時間を確保し、個別に指導ができるようにする。</li> <li>○音楽を構成する要素について学習し、キーワードとして鑑賞の感想を書くときに使うようにする。</li> <li>○常時活動として、リズムづくりをする。</li> </ul>  |
| 第2学年 | <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の思いを表現するために歌いや楽器の演奏の技能を身に付けるような指導が必要である。</li> <li>○音楽の要素を知覚し、感受したことを身体や言葉で表現できるように指導する必要がある。</li> <li>○音楽経験や技能の差にかかわらず、音楽を楽しめるような教材選択や、指導が必要である。</li> </ul> <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ペアやグループでお互いの演奏を聴き合ったり、演奏の様子を見合ったりすることで、技能の定着を図る。</li> <li>○鑑賞をするときは、音楽の要素をキーワードとして提示することで聴く視点を与える。</li> <li>○パートによって難易度が異なる曲で合奏を行い、自分の役割を感じながら主体的に学習に参加できるようにする。</li> </ul>  | <p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○手拍子や身体を使って、楽しみながら拍子をとらえたり、リズムの模倣をしたりすることができている。</li> <li>○鍵盤ハーモニカの演奏では指使いやタンギングに気を付けてながら楽曲の練習を繰り返すことで、技能の定着を図っている。</li> <li>○音楽を形づくる要素である強弱や速度を知覚しながら、音楽に合わせて身体表現をすることができている。</li> <li>○旋律や歌詞から曲想を感じながら、歌うことができている。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○鍵盤ハーモニカの指使いやタンギングなどの技能は定着に差がみられる。</li> <li>○歌唱・器楽のどちらにおいても自分の思いをもって表現の工夫をするのが不十分である。</li> <li>○音楽経験の差や若手意識があり、学習意欲にも差がみられる。</li> </ul>   | <p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○鍵盤ハーモニカの個別の指導時間を確保することが難しい。</li> <li>○鑑賞の活動中、静かに聴けず、友だちの鑑賞を妨げてしまう児童への指導が必要である。</li> <li>○肉の間に合唱や合奏をするか目標をもたせにくい。</li> </ul> <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎の指使いやタンギングを指導する1学期に、学習ボランティアに教回にわたり入ってもらい、できているかどうかの確認を個別にもらうことで、基礎的な演奏技術の定着を図る。</li> <li>○鑑賞曲中に出てくるモノや動物などの様子や身体表現させたり、曲調が変化するところで手を挙げたりする動作を取り入れることで、全員が集中して曲を楽しみながら聴けるようにする。</li> <li>○授業で練習した合奏の曲を、グループごとのミニ演奏会で鑑賞し合うことで、友だちの表現の良さに気付けるようにする。相手意識をもって演奏できるようにする。</li> </ul> |
| 第3学年 | <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○楽しく歌うことはある程度できたが、そこからイメージをふくらませて表現するまでにはまだ至らない。</li> <li>○器楽は個人差が大きく、また感染対策上ながらの指導のため、本来の楽器の音色など味合わせることが難しかった。</li> </ul> <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○歌唱では、歌詞のイメージを膨らませるよう、音楽の説明や関連する映像などを見せて、曲づくりをしていく。また、メロディやリズムの特徴など捉えさせ、曲想を膨らませる手助けにしたい。</li> <li>○リコーダーの演奏はマスクをしたまま、楽器チューブをつけて演奏している中で、音油に吹きよしても筋書きが必要で、音を出すために特別なコツをつかむことも必要となる。3年生にはなかなか難しいため、家庭でマスクも外し、チューブもつけずに演奏する音をまず体験させ、リコーダー本来の音色を味合わせたい。また、一人ひとりもしっかりと見ていくことで、若手意識を少しも減らしていきたい。</li> </ul> | <p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○口を開けて、響きの大きさに気を付けて歌おうとする児童が多い。元気な声で歌っている。</li> <li>○リコーダーの学習では、一人ひとり弱息に気を付けて演奏することができ、教師も一人ひとりの音色を聞き取って声掛けすることができている。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○様々な歌声の響きを経験し、曲に合った歌声を工夫することは意識をもって取り組むことができるようにしていくことが課題である。</li> <li>○使う音が増えるとタンギングができなくなる児童が半数いるので、3年生のうちにタンギングができるようになるようにすることが課題である。</li> <li>○三鷹「学び」のスタンダード「学習習慣2」にあるように、自分たちの歌声やリコーダーの音色について、自分たちの考えを伝えあうことを学習化し、「こんな歌で歌いたい」という思いをもって表現できるようにしていきたい。</li> </ul>              | <p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○指名を隠したり読んだりする時間が少なく、指名読みに時間がかかる児童が多い。</li> <li>○授業終わりの時間が守られていない。</li> <li>○学習内容が歌唱・リコーダーに偏っていた。</li> </ul> <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○楽譜を書いたり読んだりする活動を、児童の負担感少なく増やしていきたい。読指への抵抗感を減らす。</li> <li>○楽譜をもつてリコーダーの手入れの時間を確保し、時間を守りながら楽器を大切に扱うことを学習化する。</li> <li>○2学年、3学期の学習で、鑑賞・音楽づくりの学習をバランスよく行う。</li> </ul>   |
| 第4学年 | <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○歌唱の取組も、個人差があり、歌うことを遊びの延長としてのみとらえている姿も多少ある。楽しさを味わうことは大切だが、少し掘り下げた学習としての一面も必要である。</li> <li>○リコーダーやキーボードも積極的に取り組む子どもとそうでない子の差が大きくなってきている。それぞれの子どもの特性を生かしながら、活躍する場面を考えていく必要がある。</li> </ul> <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○曲の背景などを考えることで、曲想を考える手がかりとしていきたい。また、発声方法を意識させることで、曲に合った歌い方を考えるようにしていきたいと思う。</li> <li>○器楽では、若手な子どもたちには、得意な子どもたちの力を借りて、できるだけ諦めず頑張れる後押しをしていきたい。また、扱う楽器の種類を増やすことで、興味を引きつける工夫をしていきたい。</li> </ul>  | <p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書のパートナーソングでは、自分の旋律を音の高さや響きを付けて歌うことができた。</li> <li>○リコーダーでは、マスクやチューブをとっての初めての学習のため、息の調節やタンギングが難しい児童が多い。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学国歌は正しい音程で学国歌を歌うことが難しいようである。音の高さを確かめながら、響きも豊かにしていくことが課題である。</li> <li>○息の弱さやタンギングに気を付けた音程で演奏できるようにすることが課題である。</li> <li>○鑑賞や表現の工夫で、自分の思いを書き表すことが難しい様子がある。はじめは話し言葉で自分の思いを積極的に表現し、書き言葉、音楽表現へとつなげていくことが課題である。</li> </ul>  | <p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○リコーダーの演奏指導における特にタンギングや息の調節について定着が徹底できていない。</li> <li>○響きのある発声の指導法について、レポートリーを増やすこと。</li> </ul> <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○拡大楽譜を積極的に使い、旋律を視覚的に確かめ、歌ったり演奏したりできるようにしていくことで、音の高さやリズムを確かめられるようにしていきたい。</li> <li>○三鷹「学び」のスタンダード「学習習慣2」にあるように、友達との話し合いを大事にする一方で、自分の思いを言葉で表現することへ慣れるようにし、音楽表現につなげられるようにしていきたい。</li> </ul>   |
| 第5学年 | <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○歌唱も器楽も意欲的に取り組めない子どももたまにある。どうやって感ら興・関心をもちさせるか一層大きな課題である。また、練習している曲の良さを感じさせること、理解させることも重要で、曲の背景なども説明しながら進めていく必要がある。</li> <li>○リコーダーやキーボードも取組に個人差が大きく、若手な児童の中には、諦めている姿も見られる。</li> </ul> <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○合奏では多くの楽器を使用する予定で、それぞれに指導する必要がある。教員一人では対応できない部分も多いので、担当や保護者の支援を得ながら進めていく。また、いろいろな楽器を体験することで、児童一人ひとりが自信をもって取り組めるものを見つけていく手助けをしていきたい。</li> </ul>  | <p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毎時間、こちらから声掛けをすると、響きのある声で歌うことができた。</li> <li>○リコーダーでは、マスクやチューブをとっての初めての学習のため、息の調節やタンギングが難しい児童が多い。</li> <li>○和音の響きを生かした音楽づくりを行った。それぞれに工夫し、即興的に旋律をつくることができた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○いつでも主体的に思いをもって歌うことができるよう指導していくことが課題である。</li> <li>○リコーダーで、息の弱さやタンギングに気を付けて演奏できるようにすることが課題である。</li> <li>○音楽の仕組みを用いて、思いや意図をもって旋律をつくる活動へとつなげていくことが課題である。</li> </ul>   | <p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○リコーダーの演奏指導における特にタンギングや息の調節について定着が徹底できていない。</li> <li>○響きのある発声の指導法について、レポートリーを増やすこと。</li> </ul> <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○リコーダーの音色については、教師一人の力で解決しようせず、三鷹「学び」のスタンダード「学習習慣2」にあるように、友達との話し合いの時間を確保することで、リコーダーの音色に合った話し合いが自分たちで考えていく。互いにコツを伝え合ったりし、技能の習得につなげられるようにしていきたい。</li> <li>○研修での学びを生かし、児童に合った発声指導を工夫していきたい。</li> </ul>   |
| 第6学年 | <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○歌唱では、元気がよく歌うことはできるが、曲想に合わせて表現することはまだできていない。発声などにも気を付けながら、歌詞やメロディに合わせた歌唱ができるようにしていくことが課題である。</li> <li>○器楽では、キーボードを中心にほとんどの児童がよく演奏することができたが、中には若手意識をもち、あまり取り組めなかった子どももいる。</li> </ul> <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○歌唱では、一曲を通して歌うだけでなく、ポイントとなる部分を掘り下げて、楽曲の理解を深めたい。</li> <li>○器楽では、得意な児童はさらに生かして演奏させ、若手な子どもたちのフォローもさせていきたい。また、いろいろな楽器を体験させることで、日ごろ楽器演奏を苦手と感じる児童もこれならできるといふものを見つけれられるよう手助けしていきたい。</li> </ul>  | <p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全員で歌声を響かせることが難しい。一学期は、音域や声量、ゲーム感覚で伸ばした。</li> <li>○器楽では、自信がなさそうにリコーダーを演奏する姿がある。自信がある児童はどんどんすすめることができるので、様々な難易度のパートを用意し、自分で選べるようにしたことでそれぞれ取り組むことができている状態である。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一人ひとり歌声を聴くと音程を正しく歌うことが難しい児童も数多くおり、学国歌のユニゾン部分ではハーモニーをつくるのが難しい状態である。学国歌を自信をもって歌うことができるようにすることが課題である。</li> <li>○合奏の中で楽器を連弾したり難しい演奏に粘り強く取り組むための意識を、音楽への思いや意図を共有していくことが課題である。</li> <li>○表したい音楽表現や音楽のよさや美しさを発見することに見通しをもって取り組むようにしていきたい。</li> </ul> | <p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○歌唱で、声を出すように心をほぐす時間に多く時間をとってしまい、歌声を重ねて響き味わうことまで学習することができなかった。</li> <li>○器楽で、思いや意図をもって表現を工夫し、そのよさを確かめることに、しっかり時間をとることが課題である。</li> </ul> <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ユニゾンでハーモニーをつくる部分が多く、音程もリズムも違う旋律を重ねてハーモニーを味わう部分が多い楽曲を探し、合奏の楽しさを味わうことができるようにする。中学校での合唱や変声期の合唱への関心につなげる。</li> <li>○器楽表現で、学年合奏を取り組むことで曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように表現するか一人ひとり思いや意図を共有し、「学年の合奏」という意識で全体で思いを共有したりして学習への意欲をさらに高めていく。</li> </ul>                                       |
| くすの木 | <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○発達段階や児童の実態に応じた指導が不十分であった。</li> <li>○児童全体に伝わりやすい歌詞カードや譜面の準備が必要。</li> <li>○楽器の特徴を捉えた指導が不十分であった。</li> </ul> <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○能力別の課題設定をし、技能の習得を図る。</li> <li>○身体を使って表現をする活動内容を取り入れながら、メリハリのある授業展開にするなど工夫する。語彙の少ない児童にもわかりやすい具体物や写真などを使った教材開発をする。</li> </ul>   | <p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○高学年と低・中学年に分けることで、児童の実態に合った課題設定がしやすくなった。</li> <li>○曲に合わせて、手遊びや身体表現を楽しんだ。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○表現することに消極的な児童への支援。</li> <li>○児童の実態の聞きこたに、個に応じた指導。</li> </ul>   | <p>(指導方法の課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○集中を切らず、自主的に学習に取り組もうとする働きかけが不足している。</li> <li>○みんな違うってみんな良いと感じられる、全体共有の仕方を工夫が不足している。</li> </ul> <p>(授業改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○能力別の課題設定をし、児童が納得のいく個別のあてをもたせて、技能の習熟を図る。</li> <li>○音楽以外で表現の工夫を楽しめるように、活動内容や教員を工夫し、メリハリのある授業展開にする。</li> </ul>   |